

事例 8 「生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く」事例

○学年 第3学年

○領域・分野・題材名 B鑑賞 生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わおう。

○事例のポイント

- ①生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【音色、旋律、構成】である。
- ②生徒の思考を深めるための課題提示を工夫する。
- ③曲想と音楽の構造との関わりについて、知覚したことと感受したことを関連付けて理解することができる授業を展開する。
- ④楽器の音色や各旋律等の特徴から生み出される曲想の変化について知覚・感受しながら、曲のよさや美しさを味わうことのできる授業を展開する。

ICTを活用した主な学習場面

・知覚・感受を深めるための個人聴取及びグループ鑑賞

ICT活用の利点

- ①個々のペースで繰り返し音楽を聴くことで、思考・判断を深めることができる。
- ②鑑賞の批評文を共有し、他者理解、言語活動の向上につなげることができる。

1 題材名 生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わおう（3時間扱い）

2 題材について

(1) 生徒の実態

生徒はこれまで鑑賞分野において、オーケストラの楽曲として1年次に「春（ヴィヴァルディ作曲）」、2年次に「交響曲第5番ハ短調（ベートーヴェン作曲）」「アイーダ（ヴェルディ作曲）」を学習している。楽器の特徴や音色について理解し、それらが楽曲に与える影響や関連性についても学習を深めてきた。音楽の授業に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、歌唱活動に比べて鑑賞活動を苦手と感じている生徒が見受けられる。楽曲を聴いて素直に感動し、簡単な感想を述べることはできても、知覚・感受したことを自分の言葉で根拠をもって説明したり、楽曲を深く読み取ろうとしたりすることが難しい生徒が多い。

そこで、本題材ではICTを活用しながら協働的に活動することでそれらの課題解決を目指し、生徒一人一人の思考を深め、また他者からも学びを得られるようにし表現の幅を広げたい。

(2) 題材について

交響詩「我が祖国」はチェコの自然や伝説に基づく6つの交響詩で構成された作品である。作曲者のスメタナは当時、他国の支配下に置かれた苦しい生活や社会状況から「独立した国を作り、自分たちの故郷を取り戻そう」という思いから作曲したと言われている。この作品の一つである「ブルタバ」は、チェコを流れる川の源流から市内へと続く川の情景がオーケストラの豊かな響きで鮮明に描写されており、聴き手の想像が広がる。そして、その情景が音楽のどのような要素から裏付けされているのかを分析しながら聴くことで根拠をもって説明できるような力を身に付けさせたい。また、当時の作曲された背景に着目しながら聴くことで、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、「ブルタバ」のよさや美しさを味わえるようにしていく。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では学習指導要領のB鑑賞(1)鑑賞ア(イ)、イ(ア)を指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 〈知識〉
- (2) 音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 「ブルタバ」の生活や社会における音楽の意味や役割について関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽を文化として捉える力を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

連作交響詩「わが祖国」より「ブルタバ（モルダウ）」 B. スメタナ作曲
 標題 **A**：ブルタバの2つの源流 **B**：森の狩猟 **C**：農民の結婚式
D：月の光、水の精の踊り **E**：聖ヨハネの急流 **F**：幅広く流れるブルタバ
G：ビシェフラトの動機

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	鑑賞ア(イ)生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 鑑賞イ(ア)曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。	
〔共通事項〕	ア	音色、旋律、構成
	イ	拍子、調
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各標題音楽と演奏楽器の音色や旋律との関わりを感じながら聴く。 ・曲の構成や当時の時代背景等を絡ませながら、作曲者のこの曲に込めた思いを感じ取る。 	

6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知 「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 標題音楽としての「ブルタバ」の音楽の特徴やその背景となる文化や歴史との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
1時	知 観察・発言		↓
2時		↓	↓
3時		思 観察・発言・記述	態 観察・発言・記述

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。

(P111 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全3時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T:具体的な発問 S:具体的な生徒の姿	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
◆ 「ブルタバ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。			
1	<p>○「ブルタバ」に関心をもつ。 ・冒頭部分(標題Aからブルタバの主題まで)を聴き、表している情景などについて自由に話し合う。</p> <p>・「ブルタバ」及び標題について知る。</p> <p>○各標題の音楽的特徴を聴き取る。 ・標題A、Bの聴取及び分析をする。</p> <p>・標題C、D、Eの場面について音楽の特徴を感じ取る。</p>	<p>○最初は、曲名などを伝えずに、情景などを自由に想像しながら聴くようにさせる。</p> <p>○この曲は「我が祖国」の第2曲目であり、ブルタバ川とその岸の様子などを表現した曲であることを伝える。</p> <p>○標題については、7つの標題が付けられていること、また標題A(ブルタバの2つの源流)、B(森の狩猟)のみ知らせる。</p> <p>○音楽の特徴を音色や旋律を基に聴き取り、ワークシートに記入する。</p> <p>○感じ取ったことについて、音楽のどの部分からそう感じたのかを問い返し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができるよう支援する。</p> <p>○標題A、Bの分析を通して、標題と音楽との関りについての考え方を捉え、次のC、D、Eの分析につなげる。</p> <p>○ここではまだ標題名は明かさないようにする。</p> <p>○ワークシートの二次元コードを読み取り、繰り返し聴きながら、標題C(農民の結婚式)、D(月の光、水の精の踊り)、E(聖ヨハネの急流)の場面について、音色、旋律、構成など音楽の特徴を個人で知覚・感受できるようにする。</p>	<p>ポイント① ◎生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素、【音色、旋律、構成】を意識させる。</p> <p>ポイント② ◎生徒の思考を深めるための課題提示の工夫。</p> <p>○「イメージ→音楽の特徴」ではなく、「音楽の特徴→イメージ」とすることで標題から曲に対する先入観をもたせないようにする。</p>

ブルタバ（モルダウ）の各場面は、ブルタバ川の様子やそこから見える景色を表しています。
 どんな情景を作曲家が表現しようとしたか、音楽の特徴をつかみ推測してみよう！

場面	どんな情景？	なぜそう思った？ (音楽の要素を根拠として)	スメタナのイメージ メモ
A1 A2  	湧き水のような澄んだ水が、最初は細く流れているが、次第にうねりながら川幅を増していく。	<ul style="list-style-type: none"> 音が弱く優しい音色だったので、川幅は狭く流れ出したばかりの水源のように感じた。 A1の旋律は上行形、A2は下降形なので、性質の違う川が想像できる。 ヴァイオリンのピッツィカートが水の跳ねる音を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ブルタバの2つの源流 第1の源流：フルート 第2の源流：クラリネット
ブルタバを表す旋律 	2本の源流が合流することで水かさが増し、川幅が広がった。	<ul style="list-style-type: none"> Aの場面より力強い音色で演奏されている。 楽器が増え、音量も強くなったことから川幅が広がり流れも速くなったように感じる。 	ブルタバを表す旋律
B 	お城から馬に乗って出発し、これから冒険に出かける様子。	<ul style="list-style-type: none"> ホルンの華やかなファンファーレがこれから楽しいことが起こりそうな様子を予感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 森の狩猟 ホルンによるファンファーレ

ICT活用の利点①

ワークシートに添付したQRコードから音源を読み取ることで、簡単に再生することができる。個人聴取ではイヤホンを使用し、音楽に集中しながら繰り返し聴くことで、音楽の特徴がつかみやすくなる。

情景や音楽的要素を聴き取らせた後に標題名を知らせることで、知覚・感受したこととの関りや思考の深まりにつながる。

- ・ 標題C、D、Eにおいて、音楽的特徴と標題を結び付ける。
- ・ グループ及び全体で共有する。

- 「ブルタバ」全体を聴取する。
- T: まだ聴いていない標題F、Gがどうなっているかよく聴いてください。
- T: 曲の後半はどのようななっていましたか。
- S: 華やかで堂々とした感じに聴こえた。
- S: だんだん静かになって終わるかと思ったら、最後に大きな音がいきなり鳴って驚いた。

- C、D、Eの標題名のカードを提示し、どれに当てはまるか選ばせる。
- グループ内で選択したものを共有する際は、知覚・感受したことと標題とのつながりが音楽的根拠を基に説明できるようにする。
- 7つの標題を意識させながら聴かせる。
- 曲への興味をもたせたまま、次時へつなげる。

ポイント③

◎ 曲想と音楽の構造との関りについて、知覚したことと感受したことを関連付けて理解することができる授業を展開する。

◆ 音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

- 2
- 前時の復習をする。
 - 「ブルタバを表す旋律」の変化を知覚・感受する。

<p>本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は「ブルタバを表す旋律」、F、Gに着目することを確認する。 ・「ブルタバを表す旋律」を確認する。 ・標題F「幅広く流れるブルタバ」を聴き、音楽的特徴を感じ取る。 <p>○作曲者や楽曲の歴史的背景について知る。(スメタナ、チェコについて知る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景等を知った上で、「ブルタバを表す旋律」と標題Fを再度聴取する。 ・標題G「ビシェフラトの動機」を鑑賞し、Fからのつながりやスメタナが曲に込めた思いについて考える。 ・分析したことをグループで共有する。 	<p>○「ブルタバを表す旋律」は、この曲の様々な場面で形を変えながら繰り返されており、川の流れを印象付けていることを理解させる。</p> <p>○標題Aの後半だけでなく、標題Dの後半にもこの旋律が出てきていることにも気付かせる。</p> <p>○ワークシートのQRコードを読み取り、「ブルタバを表す旋律」、標題Fの音源を個人で繰り返し聴きながら分析できるようにする。</p> <p>○同じモチーフのAとFの違いは何か、音楽を形作っている要素は何かをもとに考え、ワークシートに記入する。</p> <p>○スメタナやチェコ文化や当時の情勢などについて理解させる。</p> <p>○調性の変化だけではなく、その背景にあるスメタナの心情にも関心をもたせる。</p> <p>○生徒たちの意見を実際に音源で確かめる場を設定することで、意見交換の内容と音楽とを結び付けて鑑賞することができるようにする。</p>	<p>ポイント④</p> <p>◎楽器の音色や各旋律等の特徴から生み出される曲想の変化について知覚・感受しながら、曲のよさや美しさを味わうことのできる授業を展開する。</p> <p>◎同じような旋律を比較させることで、曲想の変化に気付きやすくなり、人々の心情の変化にも繋げやすくなる。</p>
<p>3</p>	<p>○前時の復習をする。</p> <p>○「プラハの春音楽祭」のオープニングで「ブルタバ」が演奏されていることを知る。</p> <p>T：チェコの人々にとって交響詩「我が祖国」とはどのような曲なのだろうか。</p> <p>S：毎年音楽祭の冒頭で演奏されているからには、チェコの人々にとって大切にしたい曲なのだと思う。</p> <p>○「国民楽派」について知る。</p> <p>T：スメタナ、シベリウス、エルガーなどに共通する点は何だろう。</p>	<p>○毎年春にチェコのプラハで開催させる国際音楽祭のオープニングで「我が祖国」が演奏されていることを伝える。</p> <p>○チェコの人々にとって「ブルタバ」は“第2の国歌”として愛されていることを知る。</p> <p>○自国の文化を音楽で表現した民族主義に基づいた作曲家たちを紹介する。(ロシア5人組など)</p>	

<p>S：当時の社会情勢や愛国心が、作曲家の強いメッセージとなって音楽に託されていると感じました。</p> <p>○音楽と人との関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽と私たちとの関わりとは何か。 ・音楽と社会との関わりとは何か。 <p>S：自分が辛いときに音楽を聴くと、心が軽くなるから音楽は心の支えになっていると思う。</p> <p>S：音楽は、歴史を通じて、政治や社会運動と深くかかわり、人々の心を動かし、社会を変える大きな力となっているようだ。</p> <p>○「ブルタバ」の批評文を書き、クラスで共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入したものを、グループで発表しあう。 <p>○「ブルタバ」を通して視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プラハの春音楽祭」のオープニングで演奏されている音源を聴く。 <p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シベリウスやエルガーの曲を途中で聴く。 ・シベリウス：「フィンランディア」（ロシア支配下にあったフィンランドの愛国心を表現した交響詩） ・エルガー：「威風堂々」（イギリスの誇りと気高さを象徴する曲） ・「フィンランディア」も「威風堂々」も“第2の国歌”として親しまれていることを紹介する。 <p>○これまでの学習を振り返りながら、音楽と人との関わりについてグループで話し合いをさせる。また、自分の生活にも関連させて考えさせるようにする。</p> <p>○数名に批評文を発表してもらい、全体で共有することで、音楽の持つ役割について考えを深めさせる。</p> <p>○ラファエル・クーベリック指揮／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の演奏の映像を観ることで、さらに思考を深める。</p> <p>○題材を通しての振り返りを、シートに記入させる。</p>	
---	--	--

8 本時の学習指導について（2／3時）

(1) 目標

音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

○学習内容・学習活動 T：教師の発問 S：具体的な生徒の姿	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
○前時の復習をする。	○「ブルタバ」は、川の情景や人々の様子を表現したもので、場面ごとに作曲者自身による標題が付いていることを再確認する。
本時の目標 スメタナが音楽に託した思いを、音楽の特徴から感じ取ろう	
<p>○「ブルタバを表す旋律」の変化を知覚・感受する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 標題A「ブルタバを表す旋律」を確認する。 T： 標題A、Dの後半に「ブルタバを表す旋律」が出てきていますが、何か違いはありますか。 S： 同じ楽器で演奏されていて、ほとんど同じ旋律だった。・ 標題F「幅広く流れるブルタバ」を聴く。 T： 2つのブルタバの旋律の違いは何だろう。 <p>T： スメタナは標題のイメージを表すために音楽でどのような工夫をしたのだと思いますか。また、そこには、スメタナのどのような思いが込められていると思いますか。</p> <p>○ 作曲家や楽曲の歴史的背景について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ スメタナやチェコの歴史を理解する。・ 歴史的背景等を知った上で、標題A、Fを再度聴取する。 <p>○ 標題G「ビシェフラトの動機」を視聴し、Fからのつながりやスメタナが曲に込めた思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・ タブレットで、自分のペースで音楽を聴きながら確認し、ワークシート記入する・ 聴いて分析したことをグループで共有する。・ 個々の意見を記入したスライドを全体共有する。	<p>○ 本時は「ブルタバを表す旋律」、標題F、Gに着目することを確認する。</p> <p>○ 「ブルタバを表す旋律」を聴き、この曲の様々な場面で形を変えながら繰り返されており、川の流れを印象付けていることを理解させる。</p> <p>○ 標題Aの後半及び標題Dの後半にもこの旋律が出てきていることにも気付かせ、違いがあるか確認させる。</p> <p>○ ワークシートに添付されている二次元コードを読み取り、標題A「ブルタバを表す旋律」と標題Fの音源を個人で繰り返し聴きながら分析できるようにする。</p> <p>○ 同じモチーフの「ブルタバを表す旋律」と「幅広く流れるブルタバ」の違いは何か、音楽を形づくっている要素を基に考えさせる。</p> <p>○ 短調と長調の旋律の違いに気付かせる。</p> <p>○ 当時の時代背景について理解させる。</p> <p>○ 改めて、標題AとFを聴き、スメタナの想いの変化を感じ取る。</p> <p>○ 机間指導をしながら、課題に対し困難さを示している生徒に思考を促すような声掛けをし、支援する。</p> <p>○ タブレット内の音源を用いながら、個々の意見を相手に伝えるようにさせる。</p> <p>○ 生徒たちの意見を実際に音源で確かめる場を設定することで、意見交換の内容と音楽とを結び付けて鑑賞することができるようにする。</p> <p>○ スライドを互いに見合うことで、他者理解、言語表現を学ぶ機会にする。</p>
ICT活用の利点② 標題A、F、Gの比較変化について記入したスライドを全体共有し、他者の意見を視覚的に感じ取ることで、他者理解、言語活動の充実につなげることができる。	
○ 本時の振り返り ・ 自己の活動を振り返り、自己評価シートに記入する。	

9 板書計画

ブルタバ(モルダウ)		作曲:ペドルジハ・スメタナ	
本時の目標 スメタナが音楽に託した思いを、音楽の特徴から感じ取ろう			
	A(ブルタバを表す旋律)	F「幅広く流れるブルタバ」	G「ビシェフラトの動機」
音楽の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・力強い音色 ・楽器が増え、音量も強くなった。 ・主旋律の裏で渦巻いているような旋律も演奏されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲調が明るくなった。 ・金管楽器はファンファーレのように演奏している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い音符で演奏され、堂々とした力強さがある。
スメタナの思い	<ul style="list-style-type: none"> ・強い意志の中にも様々な葛藤が渦巻いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圧政から解放され、喜びとこれからの明るい未来への期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェコは他のどの国からも支配を受けず、国民が団結し前に突き進んでいくという意思を表明。

10 評価の実際（ワークシート等の記録方法含む）

本時の学習における「思考力・判断力・表現力等」の評価例

(1) 主な学習活動

標題A、F、Gにおいて、楽器の音色、旋律、構成の要素を知覚・感受し、標題と情景や雰囲気醸し出す工夫を関連付けて考え、それらを自分の言葉で記述している。

(2) 評価規準

☆第3時における「思考・判断・表現」の評価①（第2時の取組と合わせて評価）

☞音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。

○記述における「おおむね満足できる」状況と（B）と判断するポイント

〈ワークシートの記述〉

「ブルタバ」の音色、旋律、構成について知覚・感受した内容や関わりについて、おおむね妥当な内容をワークシートに書いている。

F 幅広く流れるブルタバ

「ブルタバを表す旋律」では短調で演奏されていたので、暗さや不安さがあったが、「幅広く流れるブルタバ」では長調へと変わり、明るい音色が気持ちを明るくしてくれる。

○記述における「十分満足できる」状況と（A）の例

「ブルタバ」の音色、旋律、構成について知覚・感受した内容や関わりについて、作品の背景も踏まえて具体的に妥当な内容を書いている。

F 幅広く流れるブルタバ

「幅広く流れるブルタバ」では、これまでとは違い長調となり明るい音色で演奏され、テンポが速くなり、音量も大きくなっている。流れるような明るい旋律が壮大な景色とチェコの未来への希望、これまでの苦悩からの解放、チェコの人々みんなで前に突き進んでいこうという強い思いが託されているかのような音楽になっている。

☆第3時における「思考・判断・表現」の評価②（第2時の取組と合わせて評価）

思生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

○記述における「十分満足できる」状況と（A）の例

下記例の生徒は、音色、旋律、構成について音楽に込められた思いを関連付け、これまで学習したことを踏まえながら記述している。また、チェコの歴史的背景にも絡め、その音楽から自分なりの解釈や音楽の価値を見いだして記述している。以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断した。

〈批評文の記述例〉

「ブルタバ」で特に印象に残った場面は、「月の光、水の精の踊り」の場面です。水の精の踊りが月で照らされて、より神秘的に見える情景を音楽で表したのは、チャコ其自然やブルタバなどの美しさを知ってほしいというスメタナの思いが込められて居るからだと考えました。最初のフルートは柔らかくて、一つ一つの音を繋げながら、軽やかな感じで演奏しているなど思いました。このようなフルートの吹き方は、ブルタバの水面に映った、森林や住宅などを見る水の精をスメタナ自身に例えて、チェコが独立したときにもう一度、美しい景色を見たいという思いが込められているからだと考えました。

次に、ヴァイオリンが一斉に音を弾いたり、ハーブが同じ旋律を繰り返し弾いていたりしているのが印象的だなど思いました。フルートだけだと音が寂しくなってしまうのを、ヴァイオリンやハーブなどで響きや深みを補っているんだと自分は感じました。それが、月の光によって、水面に映るチェコの風景が見えるように、何か一つが欠けてはいけけない、国民同士で協力しないとチェコは独立できない、だからこそ団結しようというスメタナの呼びかけの思いが込められていると思いました。

「ブルタバ」という曲は、チェコ語を話せない国の中で自由に生きられない窮屈な思いを曲に表し、そこから立ち上がろうと応援・呼びかけをしている曲だと思いました。音楽は、言葉だとあまり伝わりにくかったり、公の場では言えなかったりすることを主張しているんだなど感じました。そして戦争などの世界の出来事について興味が無かった人が、曲の中の主張を聞くことでそれに対して興味をもつきっかけにもなると思いました。

私は、世界の出来事に対する自分の主張を伝え、人の心を動かすのは音楽にしかできないと感じたので、それが社会における音楽の存在だと考えました。

○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

各場面の分析において、音楽の特徴や作曲者の音楽表現の工夫、グループ内での個々の発言などを振り返らせ、記述する際の参考となるよう促す。また、再度音源を聴くことで気付いたことを記述できるように促す。